

旧甲州街道と猿橋ウォークに参加して

遠藤 竹男

前日までの荒れた天気うって変わって一片の雲もない秋晴れとなり、95名の参加者が2台のバスで出発する。朝霧高原にさしかかると天子ヶ岳と連山が淡い紅葉に染まっている。早朝の、いまだけだるさが抜けきらない静かな車中、石川さんのリードで「もみじ」を合唱する。続けてメジシンボールを競う。四列の中で、ある一列が何度試みてもダントツに早い。称賛を浴びて景品が渡される。ちなみにメジシンボールの由来は面白い。直訳すると薬球だ。ある老人ホームで、体育教師がお年寄りに背筋を伸ばす方法としてボールを後方へ手渡す運動を試みた。暫く続けていると皆元気になってきたのです。まさに薬(メジシン)となる球(ボール)だった。談合坂SAの広場で、清澄な青空の下ウォーミングアップ。春の陽光とも思える文字通り小春日和の中、いよいよスタート。山の中腹の小道を登る。幾筋ものさし込む木漏れ日、か弱い野鳥のさえずり、彼方の山々の紅葉、その上に厚い雪化粧の富士の頂が見える。自然の織りなす美ほど美しいものはない。かさこそと落葉を踏みしめて進み、やがて街道に出る。ふと一里塚が道端にある。草で覆われているが大きさはおそらく当時のままであろう。旅人のランドマークだ。しばし、思いは往時へタイムスリップする。街道からそれて再び山道に入り、山間の村里を通りぬける。山裾の秋、里の秋を実感する。昼食後メインの猿橋へ向かう。途中、盆地の集落をまたぐ見上げるばかりの高い鉄道高架橋に圧倒される。高さは最高地点で70mだと地元の人言う。折りしも、列車が頭上を、いや大空の中を轟音を立てて走り去って行く。再び県道からそれる。急な階段を降りると桂川だ。清流と川岸のもみじの見事なコントラスト、暫く歩いてやっと猿橋に着く。大勢の人が訪れている。橋の上から川上、川下、そして30m下の桂川を眺める。橋脚なしで橋を作った先人の智恵と技術に驚くばかり。猿橋もさるものながら川の兩岸にそそり立つ巨大な岩と木々の紅葉が一体となって全体の美をかもしだしている。古来から、文人墨客が訪れる。安藤広重の旅日記「甲州道中」に「桂川の流れ清麗なり。行く間に変わる絶景、拙筆では写しがたし。」とある。時を経ても変わらぬ悠久の景観だ。

最期に東電葛野川PR館を訪れる。ここでの水力発電が果たしてきた使命や、水をリサイクルする揚水式発電について学習する。ここから帰路につきますが、今日一日すばらしい感動と感激を体験できたことに対して役員の方々のご苦勞に感謝申し上げます。

追記

① 石川さんのジョーク。

街道を歩いている人に「どちらへ」「コーシユウ街道散策です」「コーシユウトイレがすぐ先にありますよ」

② あるグループの談笑

Aさん「この黄色い落葉が小判のよう」Bさん「人生終わりの悲しい哀れなIさんのよう」(筆者注)「Iさん、まだまだお元気です。これからもヤッホーと元気付けてください」

1月事務所休業日

13日(水) 17日(日) 20日(水) 24日(日) 27日(水)

◆いつでも気軽に立ち寄って下さい。お待ちしております◆

旧甲州街道と猿橋ウォーク

佐野和彦

甲斐路ゆくわれも過客や木の葉雨

風あれば木の葉時雨となりけり

相模原宮ヶ瀬湖水曜ウォーク

水蹴って飛び立つ鳥や湖小春

玻璃越しの冬麗なる湖の碧



相模原宮ヶ瀬湖水曜ウォークに参加して

増田 敏幸

6月に会社勤めをリタイヤしたため、初めて水曜ウォークに参加することができた。そのデビューの日が予報では雨で、出鼻をくじかれた思いがしていた。歩こう会に入ってから雨でもカッパを着て歩くことが多く、慣れてはいるがそれでも雨より晴れのほうがいいのは言うまでもない。ところが、朝方降っていた雨も次第に上がり、歩き出すころには絶好のウォーキング日和になった。

宮ヶ瀬湖はダムによって相模川水系の中津川をせき止めた人造湖である。佐久間や井川のようなダムとは異なり、形状が複雑に入り組んでいて景観が素晴らしい。丹沢湖に似た感もあるが、周囲に作られた公園等の施設はなかなかのものである。今回参加されなかった皆さんも一度は行ってみる価値があると思う。今回の参加者は水曜日と言うこともあってか、会員以外の5人を含めても57名と少なかった。ビジターセンターを起点に歩き始めたコースは歩きやすく、計画より早め早めに進行した。周囲の紅葉も見ごろで、飽きることがないコースであった。圧巻はダムの観光放流で、2つの水門からゴーツという音とともに噴出する水流は瀑布のようで見ごたえがあった。放流は観光化していて、ダムの真下まで行ける遊歩道や、バス、エレベータ、リフトまで完備されている。楽しい思いをした半面、昨今のダム建設騒ぎを思い起こさずにはいられない。このダムも計画から完成までには29年を要しており、その間には八ツ場のように様々な問題があったはずだ。小中学校も湖底に沈んだというし、先祖伝来の田畑を泣く泣く手放した人たちも多かったであろう。やや立派すぎるとも言える観光施設は、そういう人たちへの補償という意味もあると思ひ複雑な心境であった。放流見学を終え、午前中の対岸を通ってスタート地点に戻った。ビジターセンター周辺の公園はイルミネーションが飾り付けられており、夜来たらさぞかしきれいだろうと思う。帰りのバスの中で、富士官焼きそば(カップめん)がお土産に配られ、ちょっと得した気分。いつものことながら、役員の方々がありがとうございました(月に2度のイベントは下見も考えると大変なんですよね、きっと!)

編集後記

新しい年がスタートした。今年の干支は寅。「寅」は「嬪」(いん:「動く」の意味)で、春が来て草木が生ずる状態を表しているとされる。不安定な世の中、寅年にちなんで早く春が来てほしい。いっば、一歩、歩を進めるウォークのように、明るい兆しの春を早く迎えたい。私たちウォーカーは、一歩先に春へ。さあ、歩こう!